



VOLVO CAR JAPAN

Press Release

2018年9月6日

ボルボ・カーズの新自動運転コンセプト “360c”： 車で行けるのに飛行機を選びますか？

本プレスリリースは、9月5日スウェーデン本社発、プレスリリースの翻訳版です

想像してみてください、空港の必要ない長旅を。空港でのセキュリティチェックや長い待ち時間、長い行列、騒がしさ、旅客機の窮屈さといった不便のない世界を。これらの代わりに、自宅であなたを乗せ、ドアツードアでファーストクラス並みのプライベート空間による移動ができれば、どうですか？



本日、ボルボ・カーズは自動運転の未来を見据えた新しいコンセプトカー、ボルボ 360c コンセプトを発表します。このコンセプトは自動運転、電動化、コネクテッド、安全性を実現した夢のような移動手段を現実化させることができます。これは、例えば航空業界における数十億ドル規模における国内線市場に、ボルボの新たな成長の可能性を示しています。

360c は、人間が運転しない完全自動運転の電気自動車をベースにしています。このコンセプトは、ステアリングホイールもエンジンも搭載しないため設計の自由度が高く、この特徴を活かすことで、車内の 2 列目、3 列目の従来の乗客位置を見直す機会を提供します。

報道関係お問い合わせ先
ボルボ・カー・ジャパン 広報部

360c は、自動運転車を使った「睡眠できる環境」、「動くオフィス」、「リビングルーム」、「エンターテインメントスペース」という 4 つの可能性を提示しています。これらはすべて、人々の移動のイメージを覆すものです。また、自動運転車は他の道路利用者と安全に対話を図れるようにするための新たなグローバルスタンダードを導入します。

ボルボ・カーズ・グループ代表取締役社長兼 CEO のホーカン・サムエルソンは、次のように述べています。「今後のビジネスが変わることになるでしょうし、ボルボは私たちの業界にも変化を促すことになるでしょう。自動運転は、ボルボが安全性において大きな一歩を踏み出すことだけでなく、エキサイティングな新しいビジネスモデルの可能性を開き、顧客が車で移動中にしたいことで時間を過ごすことができます。」

360c は、短距離航空路線のほか、航空会社、航空機メーカー、他のサービスプロバイダーからなる数十億ドル規模の業界に対し、有利な競合相手となる可能性を秘めています。出発地と目的地との距離が 300 キロメートル程の特に短いルートでは、代替移動手段として参入する最有力候補と言えます。

例えば米国内では昨年、7 億 4000 万人以上の旅行者が国内線を利用し、アメリカの国内航空業界は数十億ドルの利益を計上しています。ニューヨークからワシントン DC、ヒューストンからダラス、ロサンゼルスからサンディエゴなどの便数の多い国内航空路線では、空港へ行き、セキュリティチェックを受け、待ち行列に並ぶといった多くの時間を費やし、自動車で行くよりも時間がかかる場合があります。

ボルボ・カーズ企業戦略担当上級副社長のマーテン・レーヴェンスタムは、次のように述べています。「国内を旅するとき、国内線のチケットを買うことは良い考えだと思いますが、実際にはそうでもありません。360c は、業界の常識を覆すことができます。スリーピング・キャビンでは、最高に快適で穏やかな夜の旅を楽しみながら、目覚めたときにはリフレッシュされた状態で目的地に到着しています。つまり、世界をリードする航空機メーカーに対しても競争力があるということです。」

360c は、ボルボのビジネスにとっての新たな潜在顧客の開拓にとどまらず、将来の移動手段、都市計画、インフラ、そして現代社会における環境対策の面でも意味を持ちます。それは単に人々の移動手段を見直すきっかけではありません。移動中に人々がどのように友人や家族とコミュニケーションを取り、時間の有効活用について可能性を広げます。

ボルボ・カーズ、デザイン担当上級副社長のロビン・ページは、次のように語っています。「自動運転車のコンセプトは、技術力の活用方法ではなく、技術そのもののモデルになることが多いです。しかし、ボルボは人間を中心に据えたブランドです。ボルボはお客様の日々の生活に焦点を絞り、どのようにして生活をより良くすることができるかを考えています。360c は、こうしたアプローチの次の段階へ踏み出します。」

360c は、幅広い議論に向けた最初の一步です。自動運転技術が多様な方法で社会を根本から変革する可能性があります。

「1903年にライト兄弟が空を飛んだとき、彼らは現代の空の旅がどのようになるかについての手がかりを得ていませんでした。私たちは、自動運転の未来がどうなるかについてまだ理解できていませんが、人々の移動手段、都市計画、インフラの活用方法にも大きな影響をもたらすでしょう。私たちは 360c を対話の始まりとみなしており、より多くのアイデアや答えを得てより多くのことを学ぼうと思っています。」マーテン・レーヴェンスタムは、このように語りました。